

2018年 おやじの山旅 北海道 大雪の山
(2018年6月30日~7月8日)



トムラウシ山登頂 2140m (7月7日 11時10分)

1. 趣旨

長年デンソー山岳部で活動した仲間達が定年を迎えた。

その仲間達で2016年におやじの山旅を立ち上げた。

かけがえのない仲間達でこれからも山を楽しみたい。(その3年目)

2. コンセプト

山を通して自然・郷土料理、現地の人とのふれあいを楽しむ。

3. 計画

山域・山名 北海道 大雪の山

期間 2018年6月30(土)～7月8日(日) 9日間

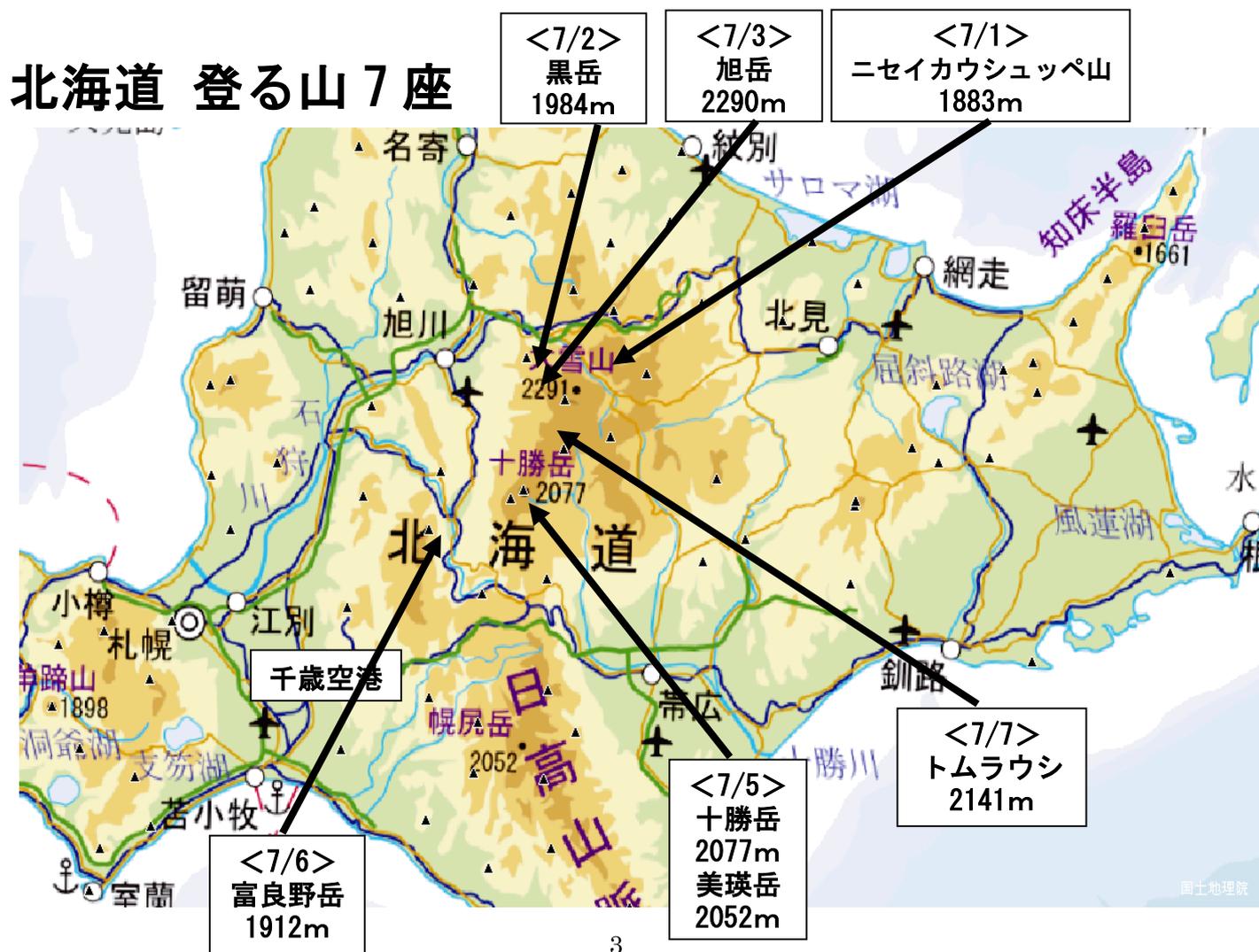
参加者と役割分担

No.	氏名	役割	登山担当リーダー	保険	生年月日	年齢	血液
1	金子 清	CL・渉外	旭岳	登山S	1955/5/10	63	A
2	藤田 勝啓	SL・装備	ニセイカウシュツペ山	登山S	1953/6/6	65	B
3	町田 修	SL・地形・記録	富良野岳	登山C	1955/9/5	62	B
4	町田 明美	(ゲスト)		ハイ1	1955/5/28	63	B
5	津田 廣一	記録(正)	トムラウシ山	登山1S	1953/6/20	65	O
6	津田 利栄子	(ゲスト)		ハイ1	1955/8/11	62	B
7	竹内 幹雄	気象・写真	黒岳	登山S	1951/10/26	66	O
8	天野 広	会計	十勝岳・美瑛岳	登山B	1955/4/25	63	AB
9	三矢 十三世	医務		ハイ1	1938/3/25	80	A
10	上田 正博	記録(副)		ハイ1	1950/5/23	68	A
11	吉田 大輝	(ゲスト)		登山C	1987/8/2	31	A
12	吉田 有希	(ゲスト)		登山C	1979/11/14	38	B
13	玉澤 憲明さん	(ゲスト)		-			

スケジュール(概要)

No.	2018年 月/日	山名	標高 (m)	登山コース	行動時間 (h)	担当	宿泊先
1	6/30(土)	(移動・観光)		千歳空港～(ファーム富田)～層雲峡 朝陽亭			層雲峡 朝陽亭
2	7/1(日)	ニセイカウシュッペ山	1883	登山口～西尾根～ニセイカウシュッペ山(往復)	6	藤田	↑
3	7/2(月)	黒岳	1984	層雲峡～黒岳～北鎮岳～間宮岳～北海岳 ～黒岳～層雲峡	9.5	竹内	旭岳温泉 ホテルベア モンテ
4	7/3(火)	旭岳	2290	旭岳温泉～姿見～旭岳～中岳分岐～裾合 平～旭岳温泉	9	金子	↑
5	7/4(水)	(予備日)		予備日(終日観光)		金子	十勝岳温泉 カミホ口 荘
6	7/5(木)	十勝岳・美瑛岳	2077	望岳台～十勝岳～美瑛岳(2052m)～望岳台	10	天野	↑
7	7/6(金)	富良野岳	1912	十勝岳温泉～富良野岳～十勝岳温泉	6	町田	国民宿舎 東大雪荘
8	7/7(土)	トムラウシ山	2141	トムラウシ温泉～トムラウシ山～トクラウシ温泉	12	津田	↑
9	7/8(日)	(移動・観光)		トムラウシ温泉～(トマリリゾート)～新千歳空港			

- ・行き 6/29: ジェットスター 中部国際空港 17:30～(GK185 便)～札幌新千歳空港 19:15
- ・帰り 7/08: ジェットスター 札幌新千歳空港 16:20～(GK186 便)～中部国際空港 18:10



4. 思い出の1コマ、1コマ

7月1日 雨中のニセイカウシュッペ山登山



雨中の雪溪歩き



ガスで視界なしの尾根歩き



山頂で“山の四季”を斉唱



歌い終わって万歳\(^o^)/



雨天強行山行、無事下山



ホテルロビーで全員集合

7月2日 表大雪 黒岳登山 (予想外に薄日も射す)



ロープウェイを降りて (5合目)
天気悪そ〜 (もってくれ)



リフトを降りて
歩き出す (7合目)



黒岳頂上でナンパ



本当は、こんな景色です



合羽を着たり、
脱いだり



薄日も 北鎮を目指して



腹減った！ゆっくり1本



大満足！
皆で頂きました

7月3日 観光 (天気最悪予想で予備日を前倒し)



大雪の源水で乾杯 (源水公園)



ヒグマ注意!



謎の美女?



大雪旭岳の源水



新星館の説明を聞いて



育てたコマクサ



新星館 2F からの風景



展示品?

7月4日 悪天予想の旭岳 (百名山)



ガスの中、旭岳を目指す



登頂だ! 残念、何も見えず



旭岳初登頂の男



?を愛する男



下山時には、天気回復?



登頂を祝って一杯

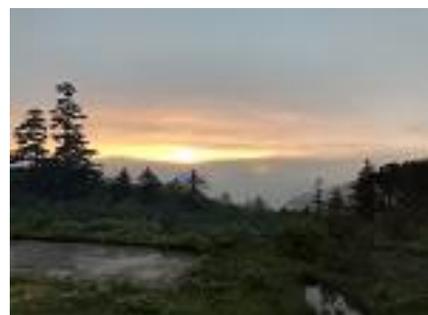
7月5日 悪天の為、沈殿 (カミホロ荘でスマホ勉強会)



窓際に珍客



アレ、親子? 5



夕焼けだ! 明日は天気にな~れ

7月6日 二隊で、十勝・富良野の2座を狙う



十勝隊； 登山口（望岳台）



雲ノ平分岐



晴れてきたぞ～



富良野隊；安政火口も過ぎて



雪溪を渡る



コマクサ発見



ウズラハハクサンドリ



3人娘？

7月7日 13h 歩行のトムラウシ山（花も多し）



雪溪上で1本



コマドリ沢分岐



大雪溪を登る



前トム平へ急登を登る



前トム平1本



チシマキンレイカ



エゾノツガザクラ



ミヤマタネツケバナ



コマクサ



ハクサンシャクナゲ



ハクサンイチゲ



ミヤマキンポウゲ



下山道確認中、疲れた～

5. 行動記録

7/01 (日) ニセイカウシュッペ山 雨

■ルート (登山口→展望台→大槍→ニセイカウシュッペ山 1883m、ピストン)



参加メンバー

CL	藤田 勝啓
SL	竹内 幹雄
	金子 清
	町田 修
	津田 廣一
	天野 広
	上田 正博
	三矢 十三世
	町田 明美
	津田 利栄子
	吉田 有希
	玉澤 憲明

■行動 (行動時間 6時間43分)

5:30 起床 8:00 朝陽亭発→ 8:30 林道ゲート→ 9:10 登山口→9:28 出発→

11:12 展望台→11:53 大槍→ 12:50 頂上→ 14:30 展望台→ 15:53 登山口着

朝陽亭で朝食バイキングを腹一杯食べた後、吉田有希さんと合流して出発。行動予定は6時間30分。泣き出しそうな天気、さえない気分だ。登山口駐車場に到着し雨具装着し、ラジオ体操後歩き出す。直ぐに、しとしと雨が降り出すが強くはならなかった。登山道の水たまりやぬかるみを避けながら進む。展望台までは緩斜面の尾根筋を我慢強く登る。天気が良ければ表大雪の素晴らしい展望が開けている場所だ。何か所か雪渓が現れる。雪質がゆるんでいるのでアイゼンは使わなかった。山の展望はきかないが山道に咲く花々に目を楽しませてもらった。ミツバオウレン、エゾノツガサクラ、ハクサンイチゲ、キバナジャクナゲ、マカンキンバイ、エゾイチゲ、ショウジョウバカマ、ツバメオトを写真に収めた。フングルマ、エゾノツガサクラは道から離れて咲いていた。山頂では竹内さんのハモニオ伴奏で山の四季を歌った。

(^♪ ニセイカウシュッペにトハラに・・・と力がこもった。

楽しみにしていた山頂からの360°の大パノラマは見る事が叶わず早々に下山した。

[エピソード] 林道ゲートには鍵が掛かっているが、事前に上川森林管理署で教えられていた鍵ナンバーは前日の偵察で間違っている事が判明。再度、管理署に問い合わせ正しい鍵ナンバーで開錠出来た。危うく入山出来ないところだった。偵察しておいて良かった。(記: 藤田)



ミツバオウレン



エゾノツガサクラ



ハクサンイチゲ



キバナジャクナゲ



マカンキンバイ



エゾイチゲ



ショウジョウバカマ



ツバメオト



雨にも負けず、登頂だ!

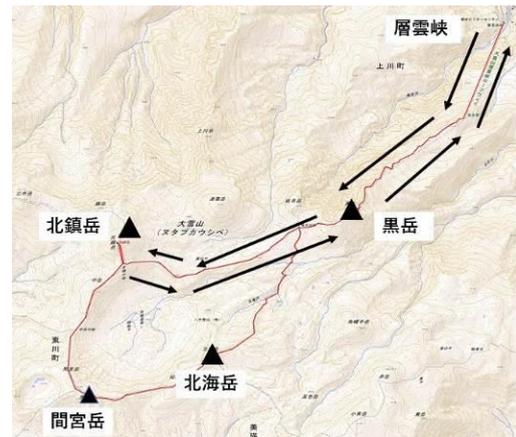
7/02 (月) 黒岳～北鎮岳 雨のち曇り、のち雨
 ■ルート 層雲峡黒岳ロープウェイ→黒岳→北鎮岳
 (ピストン)

参加メンバー CL: 竹内幹雄、SL: 天野広、金子清、町田修、津田廣一、上田正博、

■行動

8:20 層雲峡黒岳ロープウェイ→5合目→リフト→9:15 7合目→
 10:40 黒岳山頂(1984m)→11:11 分岐→12:00 御鉢平展望台→12:20
 引き返す 12:30 御鉢展望台→13:02 分岐→13:23 黒岳→14:15 リフ
 ト→14:40 層雲峡黒岳ロープウェイ 14:50 層雲峡

霧に包まれたロープウェイ乗り場から層雲峡黒岳ロープウェイ、ペアリフトを乗り継いで7合目に到着する。踊り場に「シマリス」を見つけてカメラを構えたがリスはすぐに茂みに隠れてしまった。準備体操をして出発。霧の中を進むと所々に雪渓が残っているがアイゼンなしで歩いて行ける。途中で下りてきた登山者から「上は景色が見えますよ」と言われて元気づけられた。山頂からの景色を楽しみにして歩く。やがて霧が消えて視界が開けてくると黒岳頂上に到着だ。他の登山者も何名かいて思ったより人が多いと感じた。景色は北海岳、北鎮岳方面が見えている。居合わせた方に集合写真を撮ってもらって少し休憩する。ここから一旦下り雲ノ平から北鎮岳に向かう。分岐を過ぎる頃から所々でお花が咲いているのが見える。平坦な道を気負いなく歩けるのが良い。その先の緩やかな坂を登ると御鉢平展望台に到着。北海岳方面の眺めは良いがこの先の北鎮岳、旭岳は雲の中で見えない。そして北鎮岳を目指し20分程歩いたところで思案する。この先はガスの中で展望が楽しめないのと12:30が下山開始の予定時間としていたのでメンバーと相談、引き返すことにした。御鉢平展望台で行動食を食べながら長めに休憩。登ってきた道を下っていく。雲ノ平付近で雨が降り出したのでカッパを着る。黒岳に着く頃に雨も止んだ。ここから先はガスって景色が見えないが層雲峡黒岳ロープウェイまで頑張って下山する。ロープウェイ乗り場で待っていた観光組の女性陣と合流して旭岳温泉へ車で100km程移動して、本日の行程を終える。(記: 竹内)



リフトで7合目迄



シマリスを見る



雪渓を歩く



黒岳登頂



旭岳方面



雲ノ平付近の雪渓



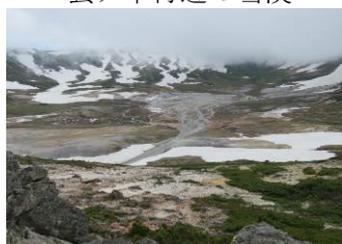
北鎮岳、北海岳の分岐



お花畑



御鉢平展望台



展望台からの景色



8 黒岳からの下山中



ロープウェイ乗り場

7/4 (水) 旭岳 小雨のち曇り

■ルート (旭岳ロープウェイ→姿見→旭岳 2290m、ピストン)



参加メンバー

CL ; 金子清

SL ; 町田修

津田廣一

竹内幹雄

天野広

上田正博

三矢十三世

ゲスト ; 町田明美

ゲスト ; 津田利栄子

■行動

旭岳温泉 ホテルベアモンテ発 8:20→旭岳ロープウェイ駐車場着

8:25→旭岳ロープウェイ発 8:45→姿見駅 8:55~9:25→旭岳山頂

11:25~11:45→姿見駅 13:30~13:45→

旭岳ロープウェイ駐車場着 14:00

今日も悪天が予想され計画を短縮し、旭岳往復に変更した。小雨が降っているがチェックアウトを済ませホテルを8:20出発する。旭岳ロープウェイ駐車場はホテルの隣にある。身支度して8:45発のロープウェイに乗車する。ガスっていて景色は何も見えない。姿見駅で雨具を着け旭岳へ向かう。登山道にはロープが張ってあり迷うことはない。八合目を過ぎ急斜面を登る。頂上付近では雨もあがる。山頂からの展望を期待したが残念ながらガスの中だった。全員で記念写真を撮り、20分程休憩後に下る。高度を下げるにつれガスも切れ、高山植物や地獄谷の噴煙を見ることができた。2時間足らずで姿見駅まで下る。早々にロープウェイに乗車し駐車場まで戻る。今回は状況(天候)をみながらの行動となったが大きく崩れることなく、何とか百名山の一つに登ることができた。(記:金子)



姿見から旭岳へ向かう



ジムカデ



地獄谷の噴煙



旭岳登頂

7/6 (金) 十勝岳 曇り時々晴れ

■ルート (望岳台→雲ノ平分岐→昭和噴火口→十勝岳 2077m、ピストン)



参加メンバー

CL ; 天野 広
SL ; 金子 清
竹内 幹雄
町田 修

■行動 (行動時間 5時間45分)

3:00 起床 3:50 カミホロ荘発→ 4:20 望岳台 登山口発→ 5:23 避難小屋 (15) →
6:28 昭和噴火口 (12) → 7:35 頂上 (32) → 9:11 避難小屋 (14) → 10:05 登山口着

望岳台駐車場に着き登山準備後、恒例のラジオ体操で準備運動を行う。今回の山旅では初めての晴れで頂上が見えていて気分が爽快だ。出発し緩い路を歩くとマルバシモツケとイワブクロが出迎えてくれる。十勝岳は花が



マルバシモツケ



イワブクロ (樽前草)

少ないと聞いていたが朝露を身にまとってとてもきれいだ。30分ほど歩くと暑くなり、吹上温泉への分岐でウェア調整をする。頂上は見え隠れしている。雲ノ平分岐を過ぎ、少して避難小屋に到着した。カミホロ荘の弁当を食べ休憩する。避難小屋にはヘルメット・毛布等が置いてあるが大きな噴石は防げそうにない。そこから急登となり、またガスも掛かってきたので稜線 (昭和噴火口) まで黙々と登る。稜線に出ると少し

風がありウインドブレーカーを着る。昭和噴火口はとても大きい、ガスでぼおっとしか見えない。砂地の緩い坂を歩き出す。十勝岳がクッキリと見えた！青空に映える十勝岳の写真タイムだ。東には鋸岳のギザギザも見える。



グランド噴火口

少し行くと前十勝の付近に二つのグランド噴火口が噴煙をもくもくと吐いている。動画撮影が出来て満足した。岩場の急登を一登りで頂上に到着し、握手で祝う。大休止を取り、景色・写真撮影・登山者との会話を楽しむ。砂地まで下ると、ガスってきた。あっという間に周りは真っ白となる。登山者が続々とすれ違ったが我々はラッキーだった。避難小屋まで走る様に下山し一服する。余りの速さで天野の足の裏が悲鳴を上げた。花を撮影しつつゆっくり歩き望岳台駐車場で靴を脱ぎくつろいだ。(記:天野)

る。少し行くと前十勝の付近に二つのグランド噴火口が噴煙をもくもくと吐いている。動画撮影が出来て満足した。岩場の急登を一登りで頂上に到着し、握手で祝う。

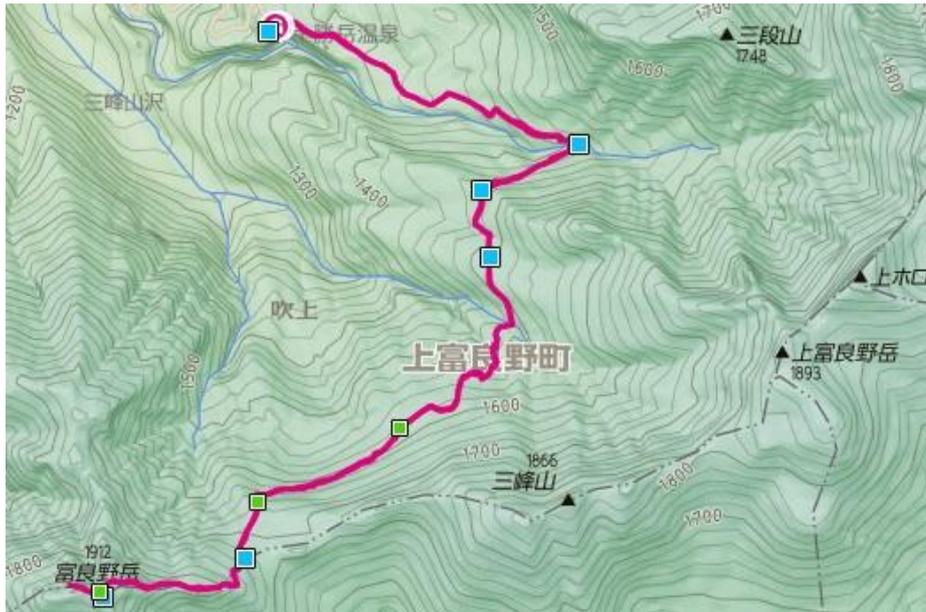
大休止を取り、景色・写真撮影・登山者との会話を楽しむ。砂地まで下ると、ガスってきた。あっという間に周りは真っ白となる。登山者が続々とすれ違ったが我々はラッキーだった。避難小屋まで走る様に下山し一服する。余りの速さで天野の足の裏が悲鳴を上げた。花を撮影しつつゆっくり歩き望岳台駐車場で靴を脱ぎくつろいだ。(記:天野)



十勝岳登頂

7/6 (金) 富良野岳 曇り

■ルート (十勝岳温泉登山口→富良野岳 1912m、ピストン)



参加メンバー
 CL ; 津田 廣一
 三矢 十三世
 町田 明美
 津田 利栄子

■行動 (行動時間 6時間50分)

3:30 起床 4:00 カミホロ荘発→4:10 登山口(凌雲閣前P) →4:20 出発→(5:00 安政火口)→
 5:25 一本(上ホロ分岐手前) → (5:50 上ホロ分岐) →6:20 広場(1600m付近) 一本→ (7:10 縦走路
 分岐) →7:50 富良野岳頂上→8:10 頂上発→9:20 広場(1600m付近) 一本→11:00 登山口着

前日、十勝パーティと富良野パーティの2組に分けて登る事に決定。我々、富良野隊は、予定通り4時に宿を出発、計画よりも10分早く出発。整備された登山道を賑やかに進む。三矢ねえさんにSLを指示するも、あっち



薄日が射して

こっちと興味の引いたものに夢中になって、明美さんトップで歩く事に。快調に安政火口も通過、川を渡って本格的な登山道へ。急登を登り、やや広い所で一本。お握りを頬張る(もう少し、頑張れば上ホロ分岐だった)。渡渉があるかな?とも思っていたが、雪渓が残り渡渉の必要なし。傾斜も緩いので、私が先頭でそのまま進む。雪渓を抜けて、再び明美さんトップで進む。天気も昨日までと違い、時々日も射す様だ。1h近く歩いたところで広場に出て一本。進む方向が変わり、高度より距離を稼ぐ。縦走路との分岐からは、長い階段が待っていた。高度を上げるに連れ、周囲がガスに覆われて視界がなくなるが、道端の花々



ミヤマハンノキ



エゾコザクラ

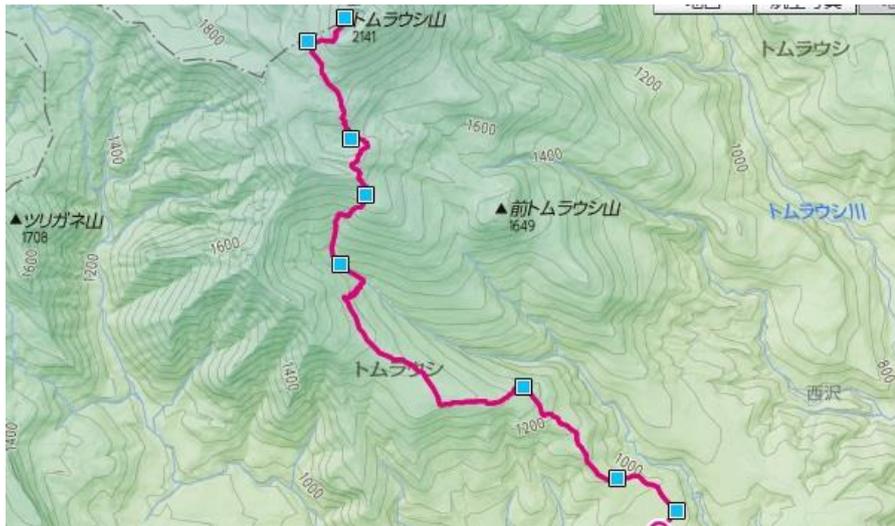
はいっぱい咲いており、花の百名山の面目躍如だ。頂上は、やはりガスに覆われて何も見えず。頂上にいた人に写真を頼み、残りのお握りを頬張る。ガスが晴れそうにないので、降りる事にする。下りも快調に飛ばす。安政火口まで降りてきて白煙が出ていないので、火口見学なしでそのまま登山口へ。可憐な花も多くみられて楽しい山行となった。(記:津田)



富良野岳登頂

7/7 (土) トムラウシ山 曇り後雨

■ルート (短縮コース登山口→カムイ天上→前トム平→トムラウシ山 2141m、ピストン)



参加メンバー	
CL	津田 廣一
SL	竹内 幹雄
	金子 清
	町田 修
	天野 広
	三矢 十三世
	町田 明美
	津田 利栄子
	吉田 大輝
	吉田 有希

■行動 (行動時間 13 時間)

3:00 起床 3:45 東大雪荘発→4:10 登山口→4:20 出発→5:30 一本→ (5:55 カムイ天上)
 6:35 一本→7:45 コマドリ沢出合 一本→8:55 前トム平 一本→(9:50 トムラウシ公園)→
 10:05 一本→11:10 頂上→11:30 頂上発→12:35 一本→13:50 アイゼン装着→
 14:10 コマドリ沢出合アイゼン外す→14:55 一本→ (16:10 カムイ天上) →17:20 登山口着

集合遅れから 20 分遅れの出発。ロングコースだ。焦りは禁物と肝に銘じて出発。『竹さ〜ん、早い。ペース落して!』と、早々に注文。ぬかるんだ道で歩きにくい、全員、快調そう。雨を覚悟も、空はもってくれている。ペース維持の為、三矢ねえさんの写真撮影を禁止。樹林帯を抜け、カムイ天上辺りまで登って来ると雲海も見え、



雲海が見えた

空が明るくなってきた。天気はひよっとするともつかな?と、淡い期待を抱く。コマドリ沢出合いで雪渓が現れる。慎重にコースを選んで、雪渓を詰める。しばし涼しさを味わうも、15 分位で分岐に出て夏道へ戻る。前トム平を過ぎ、ゴロゴロした巨岩の上を注意して越えていく。途中、ツアーパーティに道を譲ってもらう。トムラウシ公園の景色を楽しみつつも、先を急ぐ。一気に頂上までは無理と 1 本。登頂したツアーパーティの別組が、賑やかに下りてくる。挨拶を



雪渓を詰める

交わし、最後の急登を頑張る。6h 50m で頂上へ。握手し、写真を撮る。寒い。早々に山頂を後にする。直下の急斜面を過ぎると、下りは余裕が出たのか、道沿いの花々にも目がいく様になる。安全最優先で、アイゼンを装着して雪渓を降る。雪渓を過ぎると長い長いぬかるんだ登山道をひたすら歩く。カムイ天上を過ぎた頃から、誰も口を開かなくなり、やがて



トムラウシ公園



遥かなりトムラウシ
(トムラウシ公園も過ぎて)

小雨も降り出した。見覚えのある温泉コースとの分岐標識が見え、やっとゴールだ。下り 5h 50m。皆さん、ご苦労様でした。(記:津田)



トムラウシ山 全員登頂!

6.特別寄稿

2018.Oyaji.北海道の山旅感想紀行

2018.08.19 町田 修

今年も愉快的な仲間と北海道の山を楽しんだ。印象に残る思い出をいくつか整理してみた。3つぐらいに絞り込みたいところだが、次から次へと楽しいシーンが甦る。思いつくままに列挙する。まず①三矢さんの笑顔と、跳ねるように歩く元気な姿が出てくる。私も三矢さんの世代であんなに元気で山に登れるのか・・・？。又、次年度もご一緒していただきたい。次に②長いアプローチのトムラウシ、この山は・・・山、・・・岳が付いていない。山か地名か判らない面白い山だ。13時間かけ、一人の脱落者も出ずに登頂した。素晴らしいパーティシップだった。しかしもう一度と TRY！となると遠慮したい。次は③雨天続きの山行！、北海道に行く前に夏山フェスタで気象予報士の矢野君から、今年の北海道は太平洋高気圧が強すぎて梅雨前線が北に上がってくるから、計画を変更したほうがいいですよ。とアドバイスいただいた。しかし、一年がかりのプラン、飛行機も宿も休みもすべて押えてある。そう易々と変更はできない。が、しかし彼の予測は的中した。幸いにも後半の十勝岳や富良野岳は何とかカッパを着ずにすんだが、移動中の石狩川や十勝川の氾濫した様子は凄まじい。さらに④それでも雨天の山旅を、計画や日程を調整、シフトして全て消化した。この技は素晴らしい。計画に執着せず、現実に対応する柔軟性がOyajiパーティの強さか。そこに⑤今年も二人の新顔が加わった。吉田夫婦（大輝君と有希さん）だ。デンソー退社後、帯広で自適の生活を送っている。私たちの誘いを快諾してくれ、かつてのクラブメンバーとジョイント山行ができた。北の地にたくましく生きる彼らにエールを送りたい。そして⑥課題の百名山を3つ、キッチリ落とした。大雪山 2290m（旭岳）・十勝岳 2077m・トムラウシ（山） 2141m。ピークハントが本命ではないが、クラブ60周年プランに貢献できた。その旭岳、雨の中展望もなかったが整然と登った。山頂手前の尾根に黄水仙がたくさん咲いていた。間欠噴煙の音がガスの中でシューッと響いて、姿見の池辺りにジムカデの花（利栄子さんが教えてくれた）が咲いていた。十勝岳、索漠とした砂礫の活火山である。噴煙が立ち上がっていた。金子、天野、竹内さんとひたすら登り、走るように下った。雲の上、青空に映えて、乾いた十勝岳の雄姿は立派に見えた。

トムラウシ、アプローチの泥道が無ければ快適で素晴らしい山行になるだろう。しかし、その苦戦の泥道があったからこそ、上部の雪渓とお花畑と岩のトムラウシが楽しめたのかも



トムラウシの石楠花

れない。泥道の傍らに咲いていた石楠花が綺麗だった。なによりの快挙は10人全員が笑顔で山頂に立てたことだろう。

深田久弥は著書「日本百名山」の後記にこう記している。百名山を選んだ理由はおおよそ3つの基準（①山の品格＝誰が見ても立派な山/山格 ②山の歴史＝人間との深いかかわりがある ③個性のある山＝その山が備えている強烈な独自性）と、自分で百名山をしっかりと登ること、その何倍もの他山登山が有ったの 百名山だ！と。十勝岳もトムラウシも大雪もまさしく、そのような山だった、特に③個性のある山の印象が強い。

おっと、忘れてはいけない。ニセイカウシュッペへのゲートのキーを開けた玉澤さんの貴重なメモ！そして、山頂で歌った「山の四季/3節」♪・・・ニセイカウシュッペにトムラウシに・・・♪、雨の中の登頂に華を添えた。

最後に、少し寂しかったのは、いつもご一緒だった佐溝さんが参加されず、藤田さんが途中“はやり目”でリタイア、鈴木さんが都合で参加できなかったことです。次年、皆さんと元気で北の山々にご一緒できることを楽しみにしています。



十勝岳の噴煙



青空の下の十勝岳



ゲートのキー

一年の月日の経過は早いものですね。おやじの会北海道山旅の3年目の季節がやってきました。今年は大雪山系を登る計画に参加しました。年間を通してトレーニングをして、体力の維持に努め皆さんにご迷惑をかけないように心がけてきました。

今年は無常気象続きで、北海道にも梅雨が来たように毎日雨中の山行でした。私は前半の、ニセイカウシュツペ山、黒岳、旭岳、十勝岳を登り7月6日に名古屋に帰り、7日から2泊3日の加山雄三飛鳥クルーズに乗る計画でした。ところが連日の雨、予備日の変更や登山を断念して美術館見学や観光に変更、体調も考慮しコースの変更等をして、ニセイカウシュツペ山、黒岳、旭岳を登り大雪山系の雄大さ、美しさに触れることが出来ました。これは、リーダーの適切な判断と仲間の協調性によるものと深く感謝しています。観光先で特に印象深かったのは、美瑛の新星館。新潟の古民家を移築改装した美術館で、須田剋太の絵と人間国宝の島岡達三の陶器が所狭しと展示してある。二階に上がると美瑛の風景が窓ガラスの額縁の中に浮かび上がってくる。庭には高山植物が色とりどりに咲き乱れている。館長の大島康さんが土壌を改良して育てているのだ。大島さんは68歳で私と同年代である。事業に失敗して、お好み焼き屋から再起し、未来志向で二人の作家の作品を世の中に認知してもらおう夢を追い続けるエネルギーと行動力に圧倒された。「青春」は年齢ではないと言った松下幸之助の言葉を強く思い起しました。

旭岳を下山し、4日の宿十勝温泉カミホロ荘の上流で落石、通行止めとの事で、途中からホテルのバスを乗り継いでのホテル到着。しかし明日の千歳までの交通手段が掴めず、明日の朝に調べる事にして、温泉に入り身体の疲れを癒した。5日の朝、外は大雨で、鉄道は全面不通。富良野発札幌行きのバスは、今のところ運行しているが、今後は不明との事だ。ホテル発1番のバスが、上富良野まで行くとの事で、先ずは行ける所までと、皆さんに別れを告げ乗り込んだ。上富良野から富良野までの降雨通手段が不明の中、同乗した方に上富良野の臨時駐車場から富良野方面へ行くか尋ねると、行かないとの返事が返ってきた。ところが、臨時駐車場へ着くと、「富良野に買い物に行くから乗りますか？」と声をかけられて、私はさすがの思いで車に乗り込んだ。この方は、私の為に買い物の用事を作って下さったに違いない。人の優しさ、情けを痛感して胸が熱くなるのを覚えた。富良野駅までは1時間ほどかかり、ずいぶん遠くまで送って頂いたことに感謝とお礼を告げて別れた。バス停に行く、少し遅れてはいるが運行していると聞きホッとした。札幌までの切符を購入して待っていると30分ほどでバスは来た。バスの中で会話をしていると、最近台風が来たり、梅雨のような長雨や豪雨で、北海道でも毎年被害が大きくなっていると異常気象が恨めしいと言っていた。バスは順調に走り3時間ほどで札幌に着いた。千歳までの電車も動いており18時頃に千歳空港到着。4階のサウナに泊まり、明日の朝の飛行機が飛び立つことを祈りながら眠りについた。6日の飛行は予定通りで無事に我が家へ到着した。7日の準備をしていると、広島、岡山の豪雨で新幹線が運休とのニュース、横浜まで行けるのか？と、心配していると、大阪―東京間をピストン運行することが分かり、一安心。横浜港より、飛鳥に乗り込み2泊3日の憧れの三宅島周遊船旅。天候に恵まれ、加山雄三船長クルーズを体感、満足できた。異常気象の中、迷路の中を無事すり抜けた運の強さと、おやじの会メンバーの皆さんにはご心配をかけて深く感謝します。皆さん、ありがとうございました。



6月29日、北海道初日の朝。宿泊先の東川町、小西音楽堂で目が覚めたが、目やにで右目が開け辛い。顔を洗って、鏡でまじまじと見ると、右目が充血して赤い。押してみると少し痛い。どうしたものか？直ぐに病院に行こうかと考えるが、本日予定の平山に登ってから、旭川の眼科に行くことにする。・・・平山を下山して病院に行くと、「はやり目ですね。」眼科の先生から診察結果を言われ、感染力が強いので出来るだけ、人との接触はしないで下さい。だってさ・・・

これからおやじの山のみなどと合流して山旅が始まろうとするのにどうしよう。インターネットで はやり目、感染力、後遺症 を検索する。調べれば調べる程、このまま山旅を続けるとおやじの山のみなどに伝染させてしまう可能性が高い様だ。また、放っておくと目が白濁して視力低下するみたいだ。

翌朝、電話で金子君に担当のニセイカウシュツペ山を登ってから帰宅する旨を連絡した。「途中で離脱するのは残念で申し訳ありませんが、皆さんにはやり目を伝染させるのは絶対に避けたい。」・・・と

余談ですが、ニセイカウシュツペの登山で私はマダニに左足を噛まれてしまいました。弱り目に祟り目とはこの時の心境でしたが、町田君から毒吸引器を借りて、マダニの毒を吸引処置したので、すぐに治って大事には至りませんでした。

この経験から今ではザックの中に毒吸引器を携帯しています。

ニセイカウシュツペ山（大雪の展望台）同行記

2018.9.3 玉澤 憲明

千歳空港、ジェットスター到着口は 1 階の最奥。待っていると懐かしの面々が・・金子、三矢、津田夫妻、町田夫妻、天野、竹内さんである。集合は、翌日のトヨタレンタリース前 AM9:30 でしたが、一刻も早く皆に会いたくて空港で待っていました。町田夫妻、天野さんは、市内のホテルへ 金子、三矢、津田夫妻はタワーホテルへ

竹内さんより、空港温泉はリーズナブルな料金で朝食はバイキング、駐車料金は割り引きありと聞き、二人で宿泊。竹内さんが作成した道央・道南、道東の DVD や、そのバックミュージック（懐しの山唄）の素晴らしさ、自宅にトヨタのボンネットトラック（4.5 t）があり水産加工や他の仕事に使っていた事、熱量調整をフィンの開け閉めでする丸形ヒーターが付いていて日本電装（株）と明記されており、小学生の頃からデンソーという会社を知っていた事など、二人で語りながら酒を楽しみました。

翌日、藤田さん以外の全員集合、道東道占冠 IC で降り、富良野のペランダー園を見学し、近くのレストランで昼食。明日の登山口確認の為、ニセイカウシュツペ山登山口へ向かう。登山口の看板（標識）を見過ごした事に気づき、少し引き返してゲートへ。金子リーダーの確認ゲート番号（事前に聞いていた）で、ゲートの錠前が開かず、悶々とした状態が続く。その内に、自分の登山用メモの中に、上川管内の同一のゲート番号をメモった気がして調べてみたところ、“1732”と記載されていた。早速にリーダーへ連絡、試してみたところ、見事に錠前が開いた。登山口までの下見が出来た。

翌朝の登山日は雨。かつて経験したことがない程の最悪状態。足は攣り、何度も滑ってはスピンして転んだ。私の前回登頂時は快晴、1533mの展望台より大雪山系の山々、そしてトムラウシが望め、大槍ではツガザクラなどの花々が咲き、同行メンバーの母子、小学2年生の男児の健脚を思いだしました。今回、ピークハントする迄、藤田さん始め、皆様に気遣い・励まされ、やっと登頂出来ました。ありがとうございます。

一夜明け、雨中登山を避けた女性達と、層雲峡大雪写真ミュージアムを見学、その後、藤田さんと千歳へ戻り、空港温泉宿泊。翌日に三井アウトレット（札幌）、千歳アウトレットを見学後空港へ藤田さんをお送りして帰郷。この度は、皆様と短い同行でしたが、いつも通りの楽しい山行でした。それから、三矢さんの東大雪～トムラウシのピストンは、行動時間・年齢共々、女性としてのベスト記録と思われます。その後、地元のアポイ岳（花の百名山）を津田夫妻が訪れてくれ、同行したこともいい思い出となりました。尚、この山は三矢・青山・青柳・藤田さんも登っています。

この度は、誠にありがとうございました。

7.参加者の所見と感想

<金子 CL>

おやじの山旅 3年目を迎えた。

1年目：北海道の山(道央・道南)、2年目：北海道の山(道東)、今年3年目は北海道の山(大雪)を選定した。旭岳、十勝岳、トムラウシ山の百名山(3座)をメインにニセイカウシュッペ山、黒岳、美瑛岳、富良野岳の大雪の山7座を計画した。

今年も初日のニセイカウシュッペ山は雨の山行となった。これで初日は3年連続の雨の記録を残した。

一昨年、昨年に比べ今年は悪天候が続き、雨の影響で2日間登山を中止にした。また、3日間は山行計画を短縮コースに変更した。計画通りに実行できたのはニセイカウシュッペ山、トムラウシ山の2日間のみだった。日々悪天候が予想され、前夜にミーティングを行い、登山の判断、コースの短縮など検討し、当日の状況を見ながら行動した。メンバーとの情報の共有化ができ、計画変更もスムーズに出来た。

今回の計画で行動時間が一番長いトムラウシ山については全員登頂できるか心配したがメンバーの頑張りで全員笑顔で登頂することができた。全体計画に対しては予備日の活用、計画変更などで美瑛岳を除く6座に登頂できた。悪天候の山旅であったがメンバーの協力で充実した山行ができた。感謝したい。

今回の参加者はゲスト5名を含め13名(内女性4名)の仲間が集まった。新メンバーでは元山岳部員の吉田有希さん夫妻に参加していただき、楽しく登ることができた。次回も参加を期待したい！

最後に、北海道山旅の期間に西日本では甚大な被害が発生していた。被害に遭われた方々へ心よりお見舞い申し上げます。

<参考 (ウィキペディア抜粋)>

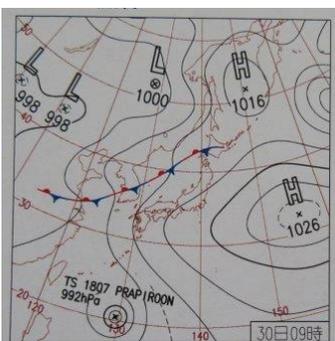
西日本の豪雨「平成30年7月豪雨」と命名 気象庁

平成30年7月豪雨とは、2018年(平成30年)6月28日～7月8日にかけて、西日本を中心に北海道や中部地方など全国的に広い範囲で記録された台風7号および梅雨前線等の影響による集中豪雨。7月9日に気象庁が命名した。

<竹内 気象・写真担当>

気象担当

台風接近もあり初日から雨に降られる有様でしたが、日々の気象情報を気にしながらの山行となりました。



日本海の前線に暖かく湿った空気が流れ込み、長崎県厳原69.5mm/1hなど、西日本で局地的に非常に激しい雨。東日本～北日本は晴れて、栃木県佐野37.0℃など所々で猛暑日。



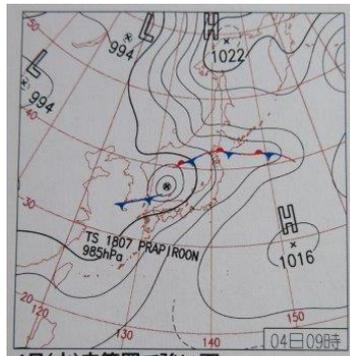
湿った空気の影響で西～東日本太平洋側の一部で雨。岐阜県樽見では75.5mm/1h。台風は沖縄本島の南を北上。沖縄県慶良間で最大瞬間風速37.0m/s。北海道は前線の影響で雨。



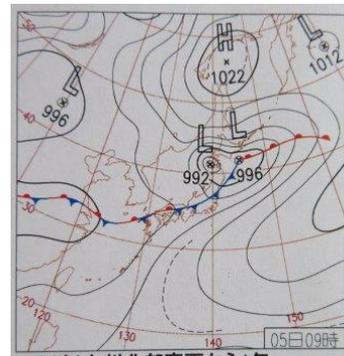
台風第7号の影響で沖縄・奄美と九州の一部は大荒れ。沖縄県粟国の日最大風速25.5m/sは7月1位。暖かく湿った空気が流入した西日本太平洋側や前線に近い北海道でも雨。



3日(火)台風第7号東シナ海上
九州中心に大荒れ。長崎県頭ヶ島最大瞬間風速42.2m/sは史上1位。沖縄・奄美は雨が続き、沖縄県北原90mm/1hは7月の記録更新。前線の影響が続く北海道は一部で激しい雨。



4日(水)広範囲で強い雨
台風第7号は15時温帯低気圧に。マリアナ諸島では台風第8号発生。前線や湿った風の影響により西日本～北日本の広い範囲で雨となり、沖縄県仲筋では129mm/1hの猛烈な雨。



5日(木)九州北部豪雨から1年
北海道付近の低気圧や北日本から九州にのびる前線、及び暖かく湿った空気の影響で全国的に雨。沖縄県城辺で史上1位111mm/1hの猛烈な雨。日降水量は高知県魚梁瀬で469mm。



6日(金)西日本に大雨特別警報
長崎・佐賀・福岡・広島・岡山・鳥取・兵庫・京都の8府県に発表。本州付近に停滞する前線の活動が活発。日降水量、高知県本山510.5mmは観測史上1位の値、佐賀県北山でも422.5mm。



7日(土)西日本など記録的大雨
岐阜県にも大雨特別警報。岐阜県御母衣の日降水量330.5mmは史上1位。一方、オホーツク海高気圧からの冷たい空気の流入が続く北日本は、最高気温4月下旬～5月並の所も。



8日(日)四国にも大雨特別警報
梅雨前線の活動が活発で西日本～東海や北陸～東北は引き続き雨や曇り。愛媛県や高知県に特別警報発表。高知県宿毛と岐阜県金山で108mm/1hの観測史上1位となる猛烈な雨。

写真担当所見

雨の日は写真撮影が少なく、天気の良い日は撮影枚数が多くなりました。皆さんから頂いた写真を一緒にして賑やかなアルバムができました。

感想

天気の良くない日が多かったが、事前に計画を修正して短縮コースに変更。雨の日は観光に切り替えて無理のない行動計画でした。おかげで楽しい山行ができました。皆さんに感謝します。

<天野 会計担当>

会計

昨年と同じく宿の支払いはカード払いで、多額の現金を持ち歩かなくて良かった。

昨年と同じく、下記 2 項の原則を守りうまく計算できた。

1. 宿泊と交通費以外は原則個人払い
 2. 個々で払えない場合（ドリンクなど）は各自で金額と銘柄を必ず記録する事。
- 交通費は参加距離に応じ計算した。

感想

悪天候にしては沢山の山に登ったと思う。

悪天候に対し柔軟に計画変更でき、楽しい山行ができた。

トムラウシ山は全員良く頑張ったと思う。達成感が胸がいっぱいです。

バイキングの食事だけでは飽きるので、途中でユースホステル・民宿等を利用したい。

宿に洗濯機・乾燥機があると良い(事前確認が必要)。

計画が欲張りすぎと感じた。(コースタイムが長い)

<津田 記録担当>

今回は、天気に恵まれなかったと言うより、見放された山旅だった。9 日間で晴れの日はなく、良くても曇り。妻と 2 人、7/12 迄、北海道へ残りアポイ・芦別・夕張を狙ったが、晴れてくれたのは夕張の頂上以後しかなかった。最初からカッパを着こんでの雨中強行突破山行も多かった。最初のニセイカウシュツペ山でカメラを、そして旭岳頂上でスマホを水没させて壊すというアクシデントに見舞われた。おかげで、今回は山の写真がなく、記録担当としての責務は果たせたか、どうか？ 甚だ、疑問が残る。ま〜、こんな時もあるさ。次回を楽しみしよう。

<三矢さん>

昨年は不参加でした。

今年も不安がありましたが、行ける所まででも参加させて頂きました。

台風の影響でお天気には恵まれませんでした。連泊と予備日で気持ちにゆとりが出来、楽しい山行でした。トムラウシ山では、せめて雪渓まででも参加させて頂きましたが、仲間と花と雲海に導かれ山頂に立つことが出来、一番の思い出が出来ました。大満足です。ありがとうございました。旭岳の火口から噴き出る噴煙も心に残る忘れられない一コマでした。予備日に出かけた新星館の作品もさることながら、館長もとてもユニークな方でした。



<町田 明美さん>

北海道の「えぞ梅雨」を体験した山旅でした。

雨天の日が続く中、予備日を変更して大雨の山行もなく良かったです。

また、十勝岳と富良野岳との別れての山行。

富良野岳は津田さんに引率していただき、学生に返ったような山行でした。

霧で展望はなかったものの、登山道に花が溢れ、鳥の声を聞きながら楽しみました。

雨天続きで山からは、ご褒美の少ない山行でしたが、私としては満足しています。

今年も一番弱い私に合わせて、いただきありがとうございました。

出来るだけ山に行って、登る力をつけたいと思います。

来年もゲストで呼んでください。

<吉田 大輝さん>

今回、トムラウシ山の山行に参加させていただきました。山行の中でも特に印象に残っているのはトムラウシ公園で、自然にできたとは思えないくらいの絶妙なバランスで、岩や植物の綺麗な景色が広がっていました。そしてなにより、みなさんとお会いしてお話をしたり、全員で登れたことがとても嬉しかったです。

<吉田 有希さん>

初めての山旅への参加。皆さんとの久々の再会はとても嬉しいものでした。初日の二セイカウシュッペは一日中雨で、それでも登るのはさすが山岳部！トムラウシの日帰りは覚悟をしていたものの、やはり長い。しかし、前トム平を過ぎたあたりからの眺めや庭園の景色は素晴らしいものでした。参加者全員で無事登頂出来、大満足の山行となりました。皆さんが北海道に来られる限り、毎年参加させていただきます。

<津田 利栄子さん>

3回目のおやじの山旅参加になります。今年はハードな山行になるかも？と、主人に言われ参加を迷いましたがメンバーの皆さんに助けて頂きながら、多くの花たちにも出会え楽しい時間を過ごすことが出来ました。自然の力の凄さを垣間見ながら、柔軟な対応で山旅を続けられ思い出多いものになりました。ありがとうございました。来年も、また参加出来れば・・・と、思っています。よろしくお願いします。

参考；会計報告

項目	備考	金額
宿泊費		900,180
飲み代		46,454
ガソリン	2 台分	25,821
レンタカー	2 台分	236,916
高速	2 台分	6,180
その他(調整)		2,700
合計		1,218,251

*玉澤さん、吉田夫妻以外メンバーの合計

【編集後記】

早いもので、おやじの山旅のスタートを切って3年が経ちました。今年は、登山条件として過去になく厳しかったと思います。皆さんの感想等を見ても、連日の雨に振り回された山旅だったのではないのでしょうか？そんな中にも計画した7座中、6座に登頂出来たのは、自画自賛ながら大したものだと思います。

しかし、年齢を考えると寂しいですが、体力・気力も年々減っていくのは避けられず、身の丈にあった山の選定が、今後大切になってくるのかな？とも思います。と、同時におやじの会に新しい気の合ったメンバーが加わる事で、より活性化してくれる事を期待します。今回、新しく参加してくれた若き吉田夫妻等、頼もしく思えてなりません。編集委員長のバトンを渡せるメンバーが現れるのを待っております。今年も、何とか乗り切れた様です。